

## 〔資料紹介〕 土井ヶ浜遺跡第4次調査の映像資料

高椋浩史

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

### 1 はじめに

土井ヶ浜遺跡の本格的な発掘調査は、1953(昭和28)年に第1次調査が開始され、その後2000(平成12)年までに計19回の調査が実施されている。それらの調査の成果について、2014(平成26)年に正式報告書が刊行され、それまで未報告であった第1次調査から1957(昭和32)年の第5次調査を含めた全ての調査の成果が公表された。現在、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムでは出土資料や調査で作成された記録資料を含めた土井ヶ浜遺跡に関する資料の整理を進めている。

そうした中で、今回新たに発掘調査当時の映像を記録した8mmフィルムが発見された。土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムには、これまで土井ヶ浜遺跡第4次調査を記録した16mmフィルムが保管されており、その内容の一部が常設展示室での映像展示に使用されていた。今回発見された8mmフィルムも土井ヶ浜遺跡第4次調査時の映像記録である可能性が高いものの、フィルムの制作から60年以上が経過しており、フィルムの直接確認や映写機での投影はフィルムの劣化や損傷を進行させる恐れがあることから、デジタル化し、その内容を確認することとした。また、以前から保管されていた16mmフィルムについても、デジタル化が完了していなかったため、あわせてデジタル化することとした。二つの資料のデジタル化は、富士フィルムメディアクレストに依頼し、同社においてMP4ファイルへの変換作業がおこなわれた。以下に、8mmフィルムと16mmフィルムの記録内容を紹介する。

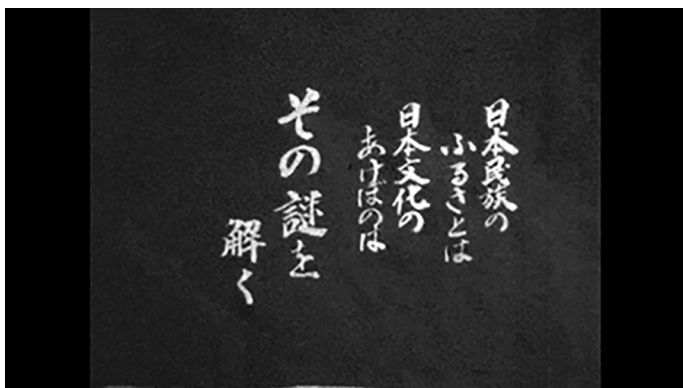
### 2 資料の内容

今回報告するのは8mmフィルム1点と16mmフィルム1点到録された映像である。いずれも1956(昭和31)年の9月に実施された土井ヶ浜遺跡第4次調査の発掘調査の映像である。フィルムケースおよび映像内には撮影日が記録されていない。

しかし、調査に参加した金関恕の日誌(2014年に刊行された土井ヶ浜遺跡の報告書に収録)と、同じく調査に参加した衛藤和行の日誌(『にぎめ』に収録)から、撮影日や撮影者について確認することができた。それによると、第4次調査において映像記録の撮影は1956(昭和31)年9月30日と同年10月3日から5日の2回に分けておこなわれており、9月30日の撮影が8mmフィルムの映像、10月3日から5日の撮影が16mmフィルムの映像であることがわかった。以下に、個々のフィルムの内容について紹介する。なお、それぞれのフィルムには今回掲載した画像以外の映像も含まれているが、紙幅の都合により省略している。また、映像に出てくる人物の敬称は省略する。

#### (1) 8mmフィルムについて

撮影日は1956(昭和31)年9月30日で、下関小型映画協会に所属していた三浦栄(下関商工会議所)と渡辺要人(山口銀行)が撮影している。映像の時間は8分42秒である。



(冒頭字幕)



(タイトル)



(制作者)



(撮影者)



(下関駅)

映像の冒頭は、下関駅から土井ヶ浜遺跡までの行程が記録されている。



(沿線風景)

海岸線に沿うように列車が走っていることから、山陰線の宇賀本郷ー長門二見間の風景と考えられる。



(長門二見駅)



(長門二見駅前)

道路は現在の県道 39 号線。



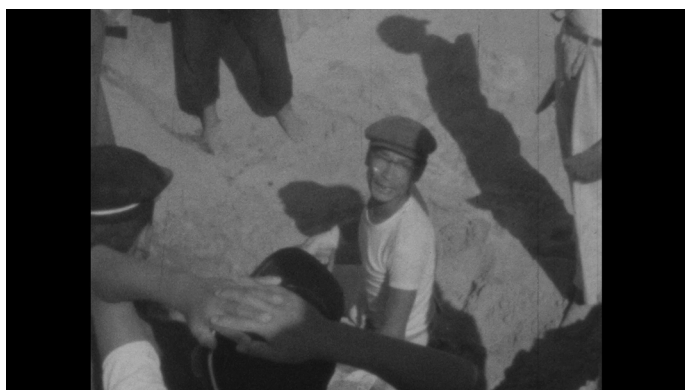
(土井ヶ浜のバス停付近)



(土井ヶ浜の海岸線)



(遺跡の近隣にある神功皇后神社)



(調査風景1)  
中央の人物が衛藤和行。



(調査風景2)

発掘調査に従事した中学生。金関恕と衛藤和行の日記によると9月30日に参加したのは神田中学校の生徒。



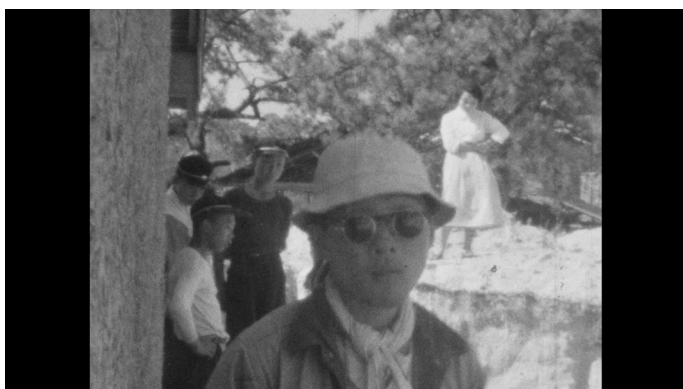
(調査風景3)

308号人骨の検出作業。左側手前より金関丈夫、永井昌文、金関恕。



(調査風景4)

310号人骨の検出作業。



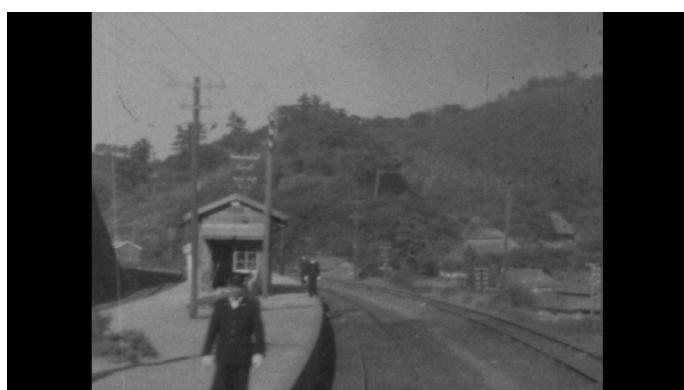
(調査風景5)

作業中の金関恕。



(エンディング)

冒頭とは逆に土井ヶ浜遺跡からの帰途の風景が撮影されている。長門二見駅に入ってきた蒸気機関車。



(長門二見駅のホーム)

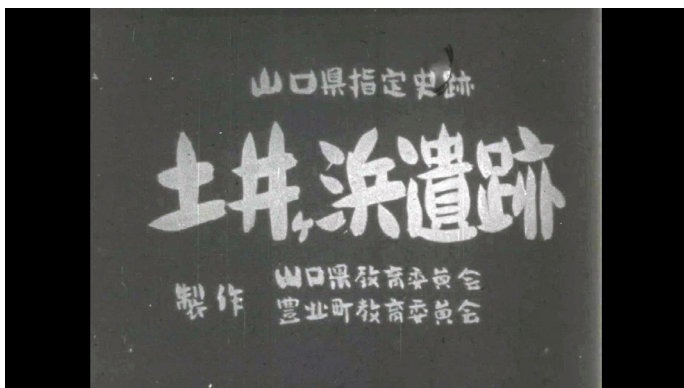


(車窓の風景)

山陰線の宇賀本郷―長門二見間の風景と考えられる。下の道路は国道191号。

## (2) 16mm フィルムについて

撮影日は1956(昭和31)年10月3日から10月5日の期間で、金関恕の日記によると山口県教育委員会の兼清正徳と岡田一夫が撮影している(下関市教育委員会編2014)。映像の時間は11分52秒である。



(タイトル)



(海岸線)

道路は現在の 191 号線と思われる。



(矢玉地区の集落)



(土井ヶ浜の海岸)



(土井ヶ浜バス停)



(土井ヶ浜遺跡の遠景)



(調査風景1)

学生と養老院の入所者が作業を進めている(金関恕と衛藤和行の日記によると、10月3日は阿川中学校、10月4日は粟野中学校、10月5日は田耕中学校の生徒が参加)。



(調査風景2)

313号人骨の検出作業風景。作業をしているのは永井昌文(当時九州大学医学部解剖学教室第2講座助手、後に同講座の教授)。



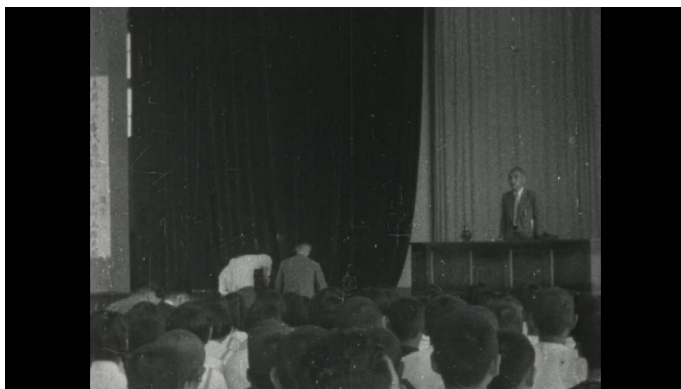


(調査風景3)

作業中の金関丈夫。



(金関丈夫の調査説明)



(粟野中学校での講演会)

衛藤和行の日記には、9月4日に粟野中学校で調査に参加していた小川五郎（当時、豊浦高校校長）による講演があったという記録がある。



(エンディング)

### 3 おわりに

以上、土井ヶ浜遺跡の第4次調査を記録した二本の記録映像の内容を紹介した。これらの映像資料は土井ヶ浜遺跡の調査を後世の我々が知る上で貴重なものである。土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムでは、これらの映像資料を用いて、土井ヶ浜遺跡の調査・研究はもとより、展示等での公開を通じて土井ヶ浜遺跡の魅力を発信する教育普及活動も進めていく。

#### 謝辞

本報告をおこなうにあたり吉留徹氏と佐坂貴之氏には資料についてのご教示をいただきました。記して感謝申し上げます。なお、映像資料のデジタル化は科学研究費挑戦的萌芽研究「古人骨の高精度元素・同位体分析を用いた弥生時代の人口移動・通婚圏の研究」(研究代表者：高椋浩史、領域番号：16K13293)の成果の一部です。

#### 参考文献

- 衛藤和行(1990)第四次土井ヶ浜遺跡発掘日記. にぎめ, 豊北町郷土文化研究会, pp.44-47.  
下関市教育委員会編(2014)2. 第4次調査. 土井ヶ浜遺跡 第1～第12次発掘調査報告書 第1分冊「本文編」, pp.92-102.